

# Murayama.Honda Dream.RT

## 2022年MFJ全日本ロードレース選手権

### ●第7戦 9/17(土)-18(日) スーパーバイクレース in 岡山 開催場所:岡山国際サーキット (大分県)



今年の全日本ロードレース選手権JSBクラスの戦いも、この岡山を含めて残り2戦。上位ランカーの戦いが激しさを増す中で、Murayama.Honda Dream.RTは初戦の秋吉選手の負傷で出遅れた感があったが、後半に入ってその存在感を着実に増してきた。

今回の岡山国際サーキットは1、2速ギアを使用することも多いテクニカルなサーキットとして知られているが、レース形式も他のサーキットと異なっている。これまでのJSBクラスは1日で2レースを行い、各ライダーの予選トップタイムとセカンドタイムで第1レース、第2レースのスターティンググリッドが決定されていた。しかし、岡山は1レースのみで実施されるため、予選は今季唯一のトップ10チャレンジ方式が採用されたのだ。まず最初の予選35分間のQ1ラウンドで、

トップ10に入ったライダーがQ2ラウンドに進出。さらに10台のライダーが15分間のタイムトライアルを行い最終グリッド順位が決定される。

Q1ではセッション開始から約7分後に転倒車が出て赤旗中断などがあったが、秋吉選手は難なく7位で通過した。続くQ2でさらに上位グリッドへと期待は高まったが、セッティングが思ったように決まらなかったこともありQ1のタイムを上回ることができず、最終予選グリッドは9位に甘んじることとなった。調子は上がっているのになかなか結果が出ないのは本意だったが、そんな鬱憤を吹き飛ばすような快走をみせたのが決勝日のウォーミングアップラン。

おりしも台風が接近して天候が読めず、決勝当日朝のウォーミングアップランはコースがハーフウェット状態で各チームがセッティングに苦しんでいた。そのウォーミングアップランで秋吉選手はトップタイムをマーク。ランキングトップの絶対王者にコンマ4秒差をつけて2番手に追いやり、各チームの関係者やファンもあらためて秋吉選手の速さに注目し、Murayama.Honda Dream.RTのポテンシャルの高さを評価する結果となった。このまま午後の決勝までハーフウェットが続けば表彰台も射程圏内と思われたが、天候は曇りながら決勝走行前にコースは完全ドライとなり、結果的に表彰台圏内のタイムには届かなかった。それでも3周目までに2台抜いて順位は7位にアップ。抜きつ抜かれつの激しいバトルはトップ集団の戦いより会場の注目を集めたが、秋吉選手はそのままの順位を確保してチェッカーを受け、今期最高位を獲得することとなった。

なお、今回のレースも、ホンダドリームジャパンがメカニックサポートを実施。福山と岡山から2名のスタッフがサポートに。日ごろホンダドリームに勤務するメカニックスタッフがタイヤや燃料の管理、ピットストップ時の事前準備や作業など、国内トップカテゴリーのロードレースで貴重な体験を得た。

さて、今季も残りは11月5日～6日に三重県の鈴鹿サーキットのみとなった。鈴鹿ラウンドは2日間で3レースが予定されている。秋吉選手もマシンも調子が上向きなので、大量のポイント獲得も期待できる。



#### ■第7戦レース結果

秋吉耕佑選手

予選9位 決勝7位 9ポイント獲得 ※岡山終了時(暫定)ポイントランキング14番手